

2011 年度
国際認定山岳医研修会
UIAA/ ICAR /ISMM
Diploma in Mountain Medicine
募集要項
主催：日本登山医学会



認定：
UIAA MedCom（国際山岳連盟医療部会）
ICAR（国際山岳救助協議会）
ISMM（国際登山医学会）

後援：
社団法人 日本山岳協会
国立登山研修所



Certificate for Courses in Mountain Medicine

This is to certify that the courses in Mountain Medicine organised by:

Japanese Society of Mountain Medicine

are in accordance with the minimum requirements of the Medical Commissions of Union Internationale Des Associations D'alpinisme (UIAA) and International Commission for Alpine Rescue (ICAR), and the International Society for Mountain Medicine (ISMM). The organisation is entitled to use the UIAA, ICAR and ISMM logos for their courses for two years from May 2010, and award the title *UIAA/ICAR/ISMM Diploma/Certificate in Mountain Medicine* to successful candidates as set out in the Diploma in Mountain Medicine regulations agreed in Aviemore, Scotland in October 2007.

Signed:

Dr Buddha Basnyat M.D.
President
UIAA Medcom

Dr Fidel Elsensohn M.D.
President
ICAR Medcom

Dr Marco Maggiorini MD
President
ISMM

国際認定山岳医制度Diploma in Mountain MedicineはUIAA MedCom（国際山岳連盟医療部会）により1997年に制定された国際認定登山医制度です。現在では、UIAA/ISMM（国際登山医学会）/ICAR（国際山岳救助協議会）が認定する国際的なDiplomaに発展しています。目的は山岳医学の臨床および研究を、あらゆる面において実践出来る医師を養成することです。現在オーストリア、ドイツ、英国、フランス、イタリア、スイス、スペインの登山医学会がその運営を行っています。上記certificateにあるように、この日本登山医学会の組織する研修会は上記3組織が認定する国際認定山岳医条件を満たしていると判断されました。必要な研修過程を終了し、すべての試験に合格すれば、上記各国のそれと同等の国際認定資格が取得出来る制度が2010年度に発足したことになります。

目的

山岳医学の臨床および研究を、あらゆる面において実践出来る医師を養成することを目的とします。山岳地帯で発生しうる疾病および外傷の理論と実践について学びます。そのためには山岳環境、およびそこで起こる生理学的変化を理解する必要があります。また山岳地帯へ至るまでの旅行医学の知識および実践も学ぶ必要があります。さらに山岳環境でのサバイバルやレスキューの技術も体得しなければなりません。

募集対象

日本登山医学会会員であって、臨床研修を修了した医師。今後、経験を積んだ看護師・救命救急士などの医療職に募集対象を拡げる予定はあるが、2011年度は対象を医師に絞る。ただし、登山経験の少ない参加希望者は、事前に日本山岳協会主催の登山技術講習や救助技術講習、ガイドの登山技術講習などを受けておくこと。最終頁の付記に記した技術基準を全て体得していることが、応募者に求められます。

コース概要

一般教程

1. 宇都宮クラスター 山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ
2011/5/14, および 15 または 10/30
2. 学会クラスター 登山医学会総会に付随して 2011/6/11, 12
3. 立山クラスター 登山技術実技実習夏季など 2011/7/16, 17, 18
4. 東京クラスター 基礎理論学習 2011/10/1, 2
5. 八ヶ岳クラスター 登山技術実技実習冬季など 2012/1/14, 15, 16
(立山クラスター合格者のみ受講可)
6. 札幌クラスター 救助技術と山スキー, スノーシュー 2012/2/18, 19

特別教程

・海外遠征やトレッキングに参加し、医学的援助を行う意志のある研修生のために、以下の海外遠征・野外活動医学コース（40時間）を設けた。

特別教程；海外遠征・野外活動医学

8. (遠征1) 高所寒冷などに関する実践的理論・ワークショップ(東京) 2011/11/26, 27
9. (遠征2) 高所でのサバイバル技術に関する実習・ワークショップ(立山)

2012./1/28, 29

10. (遠征3) 海外遠征登山に関するワークショップ (東京) 2012/3/3, 4

国際認定山岳医の一般教程は、全部で 109.25時間になります。しかし種々の事情でこの全教程を履修することが困難な研修生も少なくないと考えられますので、これを前期教程(下に黒字で示す) 61.75時間と後期教程(赤字で示す) 47.5時間の2段階に分け、前期教程だけを履修することも可能としました。前期教程すべての終了試験に合格した研修生には、「日本登山医学会認定山岳医・認定証」を授与します。前期後期全過程の終了試験に合格した研修生には「国際認定山岳医」" Diploma in Mountain Medicine" の称号を授与します。

<2011年-2012年のプログラム(予定)日本登山医学会認定山岳医(国内認定山岳医)のみを希望される研修生は黒字で記載された研修の履修のみが必要で、赤字で記載された研修を履修する必要はありません。将来国際認定山岳医も希望する予定があれば履修可能です。また2011年度のプログラムは、学会クラスタのプログラムが2010年度の谷川クラスタのものと異なるため、全体的にも若干異なります。2010年度から受講されている研修生は、自分の履修状況と2011年度のプログラムをよく確認して、受講科目の欠落がないよう、ご注意ください>

1. 宇都宮クラスタ 山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ(11.25時間)

- 2011. 5.14 女性と山(1/3時間、理論)
- 2011. 5.14 老人と山(1/3時間、理論)
- 2011. 5.14 ハンディキャップと山(1/3時間、理論)
- 2011. 5.14 山の有害生物(脊椎動物、1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 山の有害生物(無脊椎動物、1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 山の有害生物(植物、1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 有害ガス・電撃(1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 歯のトラブル(1/2時間、理論)
- 2011. 5.14 眼のトラブル(1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 耳鼻のトラブル(1/4時間、理論)
- 2011. 5.14 皮膚のトラブル(1/4時間、理論)

2011. 5.15 ロープワーク (4 時間、実習)

2011. 5.15 フリークライミング (4 時間、実習、トレイルラン参加者は受講不要) (7. を参照)

2011. 10.30 トレイルラン (4 時間、実習、フリークライミング参加者は受講不要) (7. を参照)

2. 学会クラスター 登山医学会学術集会に付随して (5 時間)

2011. 6.11 運動生理学 (1 時間、理論)

2011. 6.11 水分摂取 (1 時間、理論)

2011. 6.12 高所 (1 時間、理論)

2011. 6.12 低体温 (1 時間、理論)

2011. 6.12 救急蘇生 (1 時間、理論)

3. 立山クラスター 登山技術実技実習夏季など (26 時間)

2011.7.16 登山個人装備 (1 時間、実習)

2011.7.16 ナビゲーション技術 (4 時間、理論+実習)

2011.7.16 生存技術・疲労 (2 時間、理論)

2011.7.17 登山技術実技夏季 (9 時間、実習)

2011.7.18 生存技術・疲労 (2 時間、実習)

2011.7.18 沢登り (8 時間、立山、実技)

4. 東京クラスター 基礎理論学習 (19 時間)

2011. 10.01 旅行医学 (1 時間、理論)

2011. 10.01 国際感染症 (1 時間、理論)

2011. 10.01 高所 (2 時間、理論)

2011. 10.01 低体温症・凍傷 (2 時間、理論)

2011. 10.01 水難 (1 時間、理論)

2011. 10.01 熱中症・日焼け (1 時間、理論)

2011. 10.01 小児 (1 時間、理論)

2011. 10.02 気象 (1 時間、理論)

2011. 10.02 栄養学 (1 時間、理論)

2011. 10.02 山のリスクマネジメント (1 時間、理論)

2011. 10.02 携帯救急医療品 (1 時間、理論)

- 2011.10.02 法律問題・山岳保険（1/2 時間、理論）
- 2011.10.02 ストレス対策（1 時間、理論）
- 2011.10.02 関連持病・登山者検診ネットワーク（3 時間、理論）
循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患などと登山
- 2011.10.02 現場鎮痛処置（1 時間、理論）
- 2011.10.02 国際山岳組織（1/2 時間、理論）

5. 八ヶ岳クラスタ 登山技術実技実習冬季など（29 時間）

- 2012.1.14 低体温・凍傷（4 時間、理論+実習）
- 2012.1.14 雪崩（4 時間、理論+実習）
- 2012.1.15 登山技術実技冬季（9 時間、実習）
- 2012.1.16 アイスクライミング（12 時間、八ヶ岳、実技）（7. を参照）

6. 札幌クラスタ 救助技術と山スキー、スノーシュー（組織レスキューとの連携を構築する）（19 時間）

- 2012.2.18 救助技術総論（1 時間、理論）
- 2012.2.18 救助技術実践（4 時間、実習）
- 2012.2.18 ヘリコプターレスキュー（3 時間、理論+実習）
- 2012.2.19 山スキー・ボード・スノーシュー（クレバスレスキューを含む）（11 時間、札幌、実習）（7. を参照）

7. 山岳スポーツ活動を経験する(上記予定に分けて組み込まれています)

- 2011.5.15 フリークライミング または 2011.10.30 トレイルラン（4 時間、宇都宮、実技）
- 2011.7.18 沢登り（8 時間、立山、実技）
- 2012.1.16 アイスクライミング（12 時間、八ヶ岳、実技）
- 2012.2.19 山スキー・ボード・スノーシュー（クレバスレスキューを含む）（11 時間、札幌、実習）

以上 1.~7.の合計 109.25 時間（最短）が国際認定医資格を得るのに必要な履修課目です。
 {日本登山医学会認定山岳医（国内認定山岳医）資格のみの希望者は黒字で記載された研修の履修のみが必要で、赤字で記載された教程を履修する必要はないので、最短計 61.75 時間になります。}

・国際認定医資格希望者は、さらに以下の遠征・野外活動医学コース（40 時間）を履修することが出来ます。以下青字で示します。

8.（遠征 1）高所寒冷などに関する実践的理論・ワークショップ（東京、16 時間）

2011.11.26 高所（4 時間、理論＋ワークショップ）

2011.11.26 寒冷（3 時間、理論＋ワークショップ）

2011.11.26 遠征医療装備（1 時間、理論）

2011.11.27 旅行医学（4 時間、理論）

2011.11.27 外傷（4 時間、ワークショップ）

9.（遠征 2）高所でのサバイバル技術に関する実習・ワークショップ（立山、8 時間）

2012. 1.28 高所でのサバイバル技術（3 時間、実習）

2012. 1.29 高所でのサバイバル技術（5 時間、ワークショップ）

10.（遠征 3）遠征登山に関するワークショップ（東京、16 時間）

2012.3.3 国際患者搬送（2時間、理論）

2012.3.3 高所登山用装備（2時間、理論＋ワークショップ）

2012.3.3 現場でのレスキュー技術（4時間、理論＋ワークショップ）

2012.3.4 通信（2時間、理論＋実習）

2012.3.4 保険、法律、その他海外遠征に関する必要事項（1時間、理論）

2012.3.4 隊員選考、メディカルチェック（1.5時間、理論＋ワークショップ）

2012.3.4 遠征登山隊概要、遠征中に生じる問題（1.5時間、理論＋ワークショップ）

2012.3.4 事故時のメディアへの対応（2 時間、理論＋ワークショップ＋実習）

以上 8.～10.の合計 40 時間

<本コース受講前に満たしておくべき項目>

・受講者は日本登山医学会会員に限ります。本コース受講前に入会しておいてください。

<http://www.jsmmed.org/pg43.html>

・受講者は本コース受講前に山岳保険（冬山登山、岩登り、アイスクライミング、

山スキーを行っている最中の事故にも適用出来るもの)に加入していなければならない。なお年度が替われば再加入する必要があることをお忘れなく。

<本コース研修中に満たしておくべき項目>

- ①一次救命処置 (Basic Life Support; BLS)
- ②二次救命処置 (Advanced Cardiovascular Life Support ; ACLS)
- ③Immediate Cardiac Life Support (ICLS)
- ④病院前外傷観察・処置 (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care : JPTEC)

上記①+②+④、または③+④の修了証を、認定山岳医資格申請時に提示することが求められます。受講しておいて下さい。

<認定試験>

各クラス終了後認定試験を行います (登山技術その他の実習の試験には、講習の最中や終了前の実技試験も含まれます)。クラス終了後のペーパーテストには、多枝選択式と記述式の設問を行います。

<特別教程について>

特別教程は、原則的に、一般教程の履修を終了した、国際山岳認定医を対象としたコースです。

実際に海外遠征登山隊に参加することを想定し、メディカルチェックや通信などの実習や、過去の実例・事故例から学ぶワークショップを中心にカリキュラムが設定されています。

一般教程との同時履修も可能ですが、高所登山医学に関する国際スタンダード、およびセルフレスキュー可能な登山技術を習得していることが参加にあたって要求されます。

参考図書

「登山の医学ハンドブック第2版」、「High Altitude Medicine & Physiology 4th edition」、
「全図解レスキューテクニック 初級編／堤 信夫」、「イラスト・クライミング／阿部亮樹」、
「山岳遭難救助技術マニュアル3【山岳救助組織従事者編】」、「ガイドマニュアル 山岳ガイド編」、「ヤマケイテクニカルシリーズ (読図、気象、登山医学、レスキュー、クライミング、沢、BC、etc) 」

公式情報サイト : UIAA Official Standard

http://www.theuiaa.org/medical_advice.html

受講料

研修生は各クラス研修前に定められた受講料を支払うこととする。ただし「7. 山岳スポーツ活動を経験する」については、それが含まれる4つのコース毎に研修前に支払うこととする。

宿泊費

宿泊費や食費は原則受講料に含まれません。各自の負担で宿泊先や食事を予約して下さい(こちらで宿泊先を紹介出来るときは、事前に連絡致しますが宿泊費は各自負担です)。同様に交通費も各自負担です。

受講登録料

受講登録料として応募申請時に10000円を日本登山医学会山岳認定医実行委員会(日本登山医学会事務局内)に支払っていただきます。

受講取り消し

受講登録料はお返しできません。各コースの受講料も原則的にはお返ししません。但し、もっぱら運営者側の責任によりクラスが受講出来なくなった場合は、そのクラスの受講料はお返しします。

受講修了

本コースは5年以内に修了することが義務づけられます。期限を過ぎた場合、それまでの研修会受講は無効となります。受講料の返還はありません。日本登山医学会認定山岳医資格取得後に国際認定山岳医資格の取得を希望した場合、日本登山医学会認定山岳医受講申請時より5年以内に必要単位を取得すれば、国際認定山岳医資格を取得することが出来ます。

各講習の登山装備

スキー、スノーボード、スノーシューを含む全ての登山装備は、各人で予め用意して講習に臨んで下さい。

資格更新研修

認定山岳医資格を取得した方は、5年毎に資格更新研修を受講する必要があります。

付記：最低限の登山技術

- ・夏季：結び方とその使用法；ダブルフッシャーマン、エイトノット、プルージック、クローブヒッチ、ハーフクローブ（ムンター、イタリアン）ヒッチ、ハーネスへのロープの結び方；アンカーの作り方；確保；下降器およびプルージックを用いた懸垂下降；プルージックを用いた固定ロープの登行；UIAA 3級の岩場のフォロアーとしての登攀；ヘリコプター避難のための着地場所の準備；地上から空中への手信号。
- ・冬季：アイゼンを用いた氷河徒行と氷上歩行；雪と氷に適した様々な技術を用いた確保；簡単なアイスクライミング；単純なプーリーシステムを用いた即興のクレバスレスキュー；トランシーバー（雪崩ビーコン）とプローブを用いた雪崩埋没者の搜索、埋没者の掘り出しと救助の準備。

UIAA /ICAR/ISMM
DIPLOMA IN MOUNTAIN MEDICINE

申込用紙

(申込書に記載された個人情報は、管理目的で全講師の間で共有されることをご了承下さい。)

氏名： 男、女

生年月日： 西暦 年 月 日

住所：

電話 職場：

自宅：

携帯：

Eメール 職場：

個人用：

携帯：

医師免許発行日： 西暦 年 月 日

医籍登録番号：

専門：

希望するコース

1. 国際認定山岳医 (Diploma in Mountain Medicine) 研修
2. 日本登山医学会認定山岳医研修

国内外の登山経験

夏山縦走経験：

夏山岩登り経験：

沢登り経験

冬山縦走経験：

冬山岩登り、アイスクライミング経験

山スキー、ボード経験

公式の登山ガイド、指導員資格：

公式の山岳研修受講記録、受講年月日：

所属山岳会：

救命救急講習受講の経験：

当 Diploma 受講の理由を記述して下さい。それによりどのような貢献が出来ますか。(自分の国内外の登山経験と自分の役割、および特別な登山医学計画、登山医学講習などを含めた記述をお願い致します。

申込は、JSMM ホームページから、認定山岳医制度登録フォームにてお願いします。

http://www.jsmmed.org/dimmjpn_entry.html

お問い合わせは下記にお問い合わせ致します。

dim01@jsmmed.org